

図書館情報メディア研究科における3つのポリシー

2012年5月

図書館情報メディア研究科長

溝上智恵子

1. 図書館情報メディア研究科 博士前期課程 情報学修士プログラム

A: 目的

図書館情報メディア研究科の使命は、「情報メディアによる社会の知識共有とその仕組みに係る研究を発展させ、新しい時代に向かって社会をリードする人材を養成すること」です。博士前期課程では、情報産業や図書館など情報提供サービスの実務においてリーダーシップを発揮する高度専門職業人として、理論と実践および創造力の調和のとれた人材、急速な発展をとげつつある分野にあって将来の動向を見通せる人材、研究者として必要な専門知識・技術を身につけ博士後期課程に進学する人材を養成します。

情報学修士プログラムでは、情報技術に習熟するとともに情報の内容を理解する情報システム運営管理者、メディア・クリエイター、システムデザイナーなどの養成をめざしています。

B: アドミッション・ポリシー

文系や理系といった分野を限定せず、21世紀の知識情報社会のフロンティアにおいて知識と情報の専門家になろうとする意欲のある人を幅広く受け入れます。

C: カリキュラム・ポリシー

図書館情報メディア研究科博士前期課程の大きな特徴は、教育課程の体系化という観点から学位プログラムの考えにもとづくカリキュラムを編成していることです。具体的には、修士（情報学）と修士（図書館情報学）の2つの学位に対応したプログラムを提供しています。

授業科目は、筑波キャンパスで開講され、それぞれの学位に応じて提供される科目群と2つの学位に共通する領域を学ぶための科目群（コモン）から構成されています。

D: ディプロマ・ポリシー

学生は、指定された科目群のなかから、講義科目を20単位以上、演習科目を10単位以上修得したうえで、修士論文を作成します。演習科目のうち3科目が必修科目となっており、大学院生にとって必要なアカデミック・スキルが獲得できます。なお、同一時間帯の複数開講を最低限におさえるのみならず、他研究科等の科目も8単位まで修了要件に含むことができるので、学生は自らの関心に応じた幅広い学びも可能です。中間発表を行い、最終審査に合格すると、修士（情報学）の学位が授与されます。

2. 図書館情報メディア研究科 博士前期課程 図書館情報学修士プログラム

A: 目的

図書館情報メディア研究科の使命は、「情報メディアによる社会の知識共有とその仕組みに係る研究を発展させ、新しい時代に向かって社会をリードする人材を養成すること」です。博士前期課程では、情報産業や図書館など情報提供サービスの実務においてリーダーシップを発揮する高度専門職業人として、理論と実践および創造力の調和のとれた人材、急速な発展をとげつつある分野にあって将来の動向を見通せる人材、研究者として必要な専門知識・技術を身につけ博士後期課程に進学する人材を養成します。

図書館情報学修士プログラムでは、研究者をめざす者のほか、著作権・プライバシー・セキュリティを含む情報流通とその社会制度の問題にも明るい、図書館や資料館等の職員などの養成をめざしています。このプログラムでは、総合的かつ学際的な領域である図書館情報学という領域をふまえて、大学で図書館情報メディア領域を学んだ人はもちろんのこと、異なる学問的・職業的背景の人にも、それぞれの能力、知識を生かした学修が展開できます。

B: アドミッション・ポリシー

文系や理系といった分野を限定せず、21世紀の知識情報社会のフロンティアにおいて知識と情報の専門家になろうとする意欲のある人を幅広く受け入れます。

C: カリキュラム・ポリシー

図書館情報メディア専攻博士前期課程の大きな特徴は、教育課程の体系化という観点から学位プログラムの考えにもとづくカリキュラムを編成していることです。具体的には、修士（情報学）と修士（図書館情報学）の2つの学位に対応したプログラムを提供しています。このうち修士（図書館情報学）では、さらに留学生を対象に図書館情報学英語プログラムと現職者を対象に図書館情報学キャリアアッププログラムを編成しています。

授業科目は、筑波キャンパスで開講され、それぞれの学位に応じて提供される科目群と2つの学位に共通する領域を学ぶための科目群（コモン）から構成されています。

D: ディプロマ・ポリシー

学生は、指定された科目群のなかから、講義科目を20単位以上、演習科目を10単位以上修得したうえで、修士論文を作成します。演習科目のうち3科目が必修科目となっており、大学院生にとって必要なアカデミック・スキルが獲得できます。なお、同一時間帯の複数開講を最低限におさえるのみならず、他研究科等の科目も8単位まで修了要件に含むことができるので、学生は自らの関心に応じた幅広い学びも可能です。中間発表を行い、最終審査に合格すると、修士（図書館情報学）の学位が授与されます。

3. 図書館情報メディア研究科 博士前期課程 図書館情報学英語プログラム

A: 目的

図書館情報メディア研究科の使命は、「情報メディアによる社会の知識共有とその仕組みに係る研究を発展させ、新しい時代に向かって社会をリードする人材を養成すること」です。

図書館情報学英語プログラムは、教授言語を英語のみとするプログラムで、国際的に通用性を有し、かつ活躍できる図書館情報学の専門家を養成します。

B: アドミッション・ポリシー

留学生を対象に、英語による教育・研究指導が受けられる者で、図書館情報学の専門家になろうとする意欲のある人を幅広く受け入れます。

C: カリキュラム・ポリシー

図書館情報メディア専攻博士前期課程の大きな特徴は、教育課程の体系化という観点から学位プログラムの考えにもとづくカリキュラムを編成していることです。具体的には、修士（情報学）と修士（図書館情報学）の2つの学位に対応したプログラムを提供しています。このうち修士（図書館情報学）では、さらに留学生を対象に図書館情報学英語プログラムと現職者を対象に図書館情報学キャリアアッププログラムを編成しています。

留学生を対象に、筑波キャンパス春日エリアで開設します。授業や研究指導は英語で行われ、入学時期は2学期（8月）で、2年間の修学期間を経て、修了時期は1学期末（7月）です。

D: ディプロマ・ポリシー

学生は、指定された科目群のなかから、講義科目を20単位以上、演習科目を10単位以上する修得したうえで、修士論文を作成します。他研究科等の科目や日本語の科目も8単位まで修了要件に含むことができるので、学生は自らの関心に応じた学びが可能です。中間発表を行い、最終審査に合格すると、修士（図書館情報学）〈Master of Science in Library and Information Studies〉の学位が授与されます。

4. 図書館情報メディア研究科 博士前期課程 図書館情報学キャリアアッププログラム

A: 目的

図書館情報メディア研究科の使命は、「情報メディアによる社会の知識共有とその仕組みに係る研究を発展させ、新しい時代に向かって社会をリードする人材を養成すること」です。

図書館情報学キャリアアッププログラムは、21世紀の情報通信技術の進展にも対応できる図書館情報学分野の専門職を育成します。わが国の図書館情報学関連分野の現職者を対象に、その専門的知識や技術の高度化をめざしたキャリアアップ教育を提供します。実務経験を生かした問題意識を研究課題の設定と課題解決に反映させることで、修了後は本研究科の目指す高度専門職業人として飛躍できる人材を育成します。

B: アドミッション・ポリシー

図書館や文書館、企業・機関の情報提供部門など、情報の管理・提供サービス機関・組織に勤務している人で、図書館情報メディア領域の急速な進展に対応するため、現職のまま本領域の最新の知識と技術を学びたい社会人を受け入れます。

C: カリキュラム・ポリシー

図書館情報メディア専攻博士前期課程の大きな特徴は、教育課程の体系化という観点から学位プログラムの考えにもとづくカリキュラムを編成していることです。具体的には、修士（情報学）と修士（図書館情報学）の2つの学位に対応したプログラムを提供しています。このうち修士（図書館情報学）では、さらに留学生を対象に図書館情報学英語プログラムと現職者を対象に図書館情報学キャリアアッププログラムを編成しています。

図書館情報学キャリアアッププログラムでは、現職のまま履修できるよう、筑波大学東京キャンパス内の図書館情報メディア研究科東京サテライトにおいて、夜間および土曜日（休業期間中の集中講義を含む）に授業が開講され、研究指導も東京サテライトで行われます。

D: ディプロマ・ポリシー

学生は、指定された科目群のなかから、講義科目を20単位以上、演習科目を10単位以上修得したうえで、修士論文を作成します。他研究科等の科目も8単位まで修了要件に含むことができるので、学生は自らの関心に応じた幅広い学びも可能です。中間発表を行い、最終審査に合格すると、修士（図書館情報学）の学位が授与されます。

5. 図書館情報メディア研究科 博士後期課程

A: 目的

図書館情報メディア研究科の使命は、「情報メディアによる社会の知識共有とその仕組みに係る研究を発展させ、新しい時代に向かって社会をリードする人材を養成すること」です。博士後期課程では、知識情報社会のフロンティアを切り拓くことのできる研究者や高度専門職業人の養成をめざします。

B: アドミッション・ポリシー

図書館情報メディア分野に係る研究テーマを有し、その研究を遂行するために必要な知識・能力を持つ人材を求めています。その選抜方針は、複数回の一般入試（社会人特別選抜等を含む）を実施し、口述試験の点数によって選抜しています

C: カリキュラム・ポリシー

講義科目と実験・演習科目の履修は最低限におさえ、博士論文作成のための研究重視のカリキュラムとなっています。

D: ディプロマ・ポリシー

学生は、講義科目を4単位以上、特別実験および総合特別実験を6単位以上する修得したうえで、博士論文を作成します。博士論文の審査および試験に合格すると、博士の学位が授与されます。

なお、博士の学位とは、研究者として自立して研究する能力を有している者に授与される学位です。本研究科では、この博士の学位が授与されるために、英語もしくは日本語による学位論文の提出を義務付け、その学位論文には適切な研究方法を用いた新たな知見の記述を求めています。そのため、学位論文は査読制度のある学術雑誌に掲載された2本以上の論文をもとにまとめることを条件としています。

参考：文部科学省の説明

【学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針】

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に加えて、将来像答申が新たに提唱した「教育の実施や卒業認定・学位授与に関する基本的な方針（ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー）」に対応するもの。入学者受入れの方針と異なり、モデルとなる具体例や典型的な形態が存するものではない。将来像答申は、組織的な取組の強化が大きな課題となっている我が国の大学の現状を踏まえ、各機関の個性・特色の根幹をなすものとして、3つの方針の重要性を指摘するとともに、「早急に取り組むべき重点施策」の中で、3つの方針の明確化を支援する必要性を強調している。